

# ひまわり

令和5年11月号



↑カラー版はこちらから

## 『嚥下障害と感染症について』

校長 門脇 伸也

先日、掛かり付けの医院で定期健診を受け、健診後に医師との世間話となりました。

医師からは摂食嚥下（えんげ）障害についての話題がでました。高齢者の疾患の約40%が脳卒中であること。とりわけ、年間約40万人の脳卒中の患者さんが発症し、毎年約2万人の摂食嚥下障害の患者さんが新たに生じているそうです。脳の機能の低下が原因です。舌での押しつぶし、咀嚼力の低下や食物を飲み込みやすい形にまとめる機能の低下、歯が弱る、残存歯数、義歯の不具合により起こる唾液の性状と量の変化、嚥下反射の遅れ、喉頭（のど仏）の位置の下降、注意力・集中力の低下、合併疾患、特に多く薬剤を服用していると副作用で嚥下の障害もあるそうです。

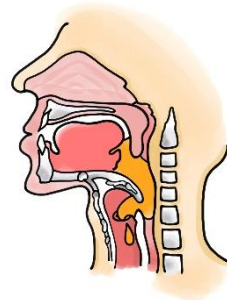
さらに、「知っていますか、誤嚥や窒息を起こすのは人間だけなのですよ。」とのこと。この話題は、ついつい聞き入ってしまいました。

医師の話を受けて、私からS財団で自らが見聞した嚥下障害のことをお話しました。高齢福祉を手掛けるS財団へ出向した経験があり、この1年間はS財団の一員として、たくさんの高齢施設や福祉行政、教育行政の方々とは交流する機会を得ました。余談ですが。その後の学校管理職の経験にプラスとなる1年間でした。

ある高齢者施設を訪れた時です。食事のAさんが「むせる」ことで、介護スタッフが、Aさんを病院に連れて行くことになりました。Aさんは水分を上手に飲み込めずに、空気の通り道に入ってしまったのです。水分は、のどの奥を通過する速度が速いので、筋肉がそれに対応できずに、こういうことが起こっていることが多いので、検査でそれを確かめた上で「とろみ」をお茶や、汁物につけていただき、のどの奥を通過する速度を遅くすることとしました。

また、来訪者がいると、食事中でも喜んで話しかけてくるBさんには、介護スタッフが優しく言葉を掛けていました。「口に物が入っているときは、話しかけてはいけませんよ。」「今食べたものを全部飲みましたか?」と聞くと、Bさんは「ちゃんと飲んだ。」と答えていました。

施設の方に聞くと、Bさんは脳卒中を患った後なので、気管に食べ物が入ってもまったく「むせない」場合もあり、喉の奥にたくさん食べ物がたまっても、本人が気付かないことがあるのだそうです。Bさんのように脳の機能が落ちていて、「むせる」ことができない場合に起こる誤嚥を「不顕性（むせない）誤嚥」と呼んでいます。この場合は食べ物だけでなく、本来なら無意識に飲み込んでいる唾液も誤嚥するため、口の中にいる細菌によって肺炎を起こすこともあります。



肺炎やインフルエンザにかかった場合は、特に気を付けなければなりません。こういった感染症が体に与えるダメージは非常に大きく、それは外からは見えない感覚や脳の機能にも及んでいきます。

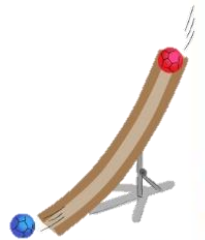
最後に、今、本校でもインフルエンザの罹患者が出て、小学部1組（小学部1～2年生）の閉鎖を11月29日～12月4日まで行います。インフルエンザの感染力は強く、日頃からの栄養と睡眠、休養が大切です。そして、発熱した場合は速やかに医療機関を受診してください。

益々、日を追うごとに冬の寒さが増してきます。皆さま、御身大切にお過ごしくださいませ。

## 「西新宿小学校との2回目の交流会」

10月20日（金）、西新宿小学校の4年生が来校し、小学部1・2組と学校間交流を行いました。班別レクリエーションでは、西新宿小学校の児童が考案したゲームを楽しみました。レクリエーションを通してお互いの名前を呼び合ったり、自分からハイタッチをしたりするなど、6月の交流会よりもすぐに打ち解けて楽しそうに関わり合う姿が見られました。全体レクリエーションでは、各校の児童を混合したチームで「ボッチャ対決」を行い、勝負は1投球ごとに大いに盛り上がりました。

交流会の最後には、両校の児童がこの日のために練習してきた「にじ」をみんなで歌いました。覚えてきた手話で一生懸命に歌う西新宿小学校の子どもたちの姿に、本校の児童も嬉しそうな表情を浮かべ、とてもあたたかい空間となりました。4年ぶりの対面交流が実現した今年度の学校間交流でしたが、お互いのことを知り合う一歩として素敵な時間を過ごすことができたと思います。



## 「中学部・グループ1日校外学習」

10月17日（火）、24日（火）に、永田町にある「国会議事堂・衆議院」の見学に行ってきました。衆議院議場では三階の傍聴席から全体を見学し、その大きさに驚くとともに、様々な役職の席が決まっていることなど、案内の方からの説明を受けました。他にも天皇陛下がお越しになった際の御休所や四階まで吹抜けの中央広間など、日常で触れることのない場所をたくさん見るといふ貴重な体験ができました。また、本来は見学ルートにない鯉を飼っている池を特別に見せていただくこともできました。

昼食は赤坂Bizタワーの「グラナータ」でパスタなどのイタリア料理を食べ、デザートに食べたジェラートの冷たさにびっくりしている生徒もたくさんいました。事後学習では自分の気になった場面を写真で紹介し、色々な部分を振り返りながら、多くのことを学ぶことができた校外学習でした。



## 「ひまわり祭を終えて」

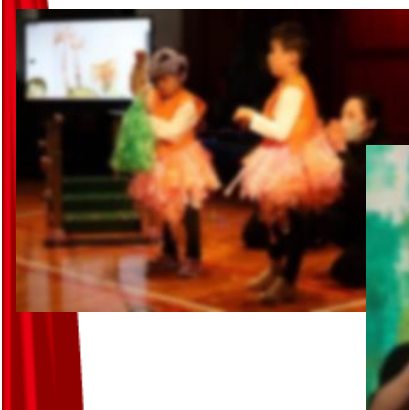
11月3日（金）に、第24回ひまわり祭を本校体育館にて行いました。児童・生徒が各学習グループと中学部に分かれて、演技を行いました。

今年度のひまわり祭では、「しゅやくはみんな！ひまわりのようなえがおで」をスローガンに、子どもたち一人一人が自分自身の役や課題の練習に取り組んできました。特に、家族が観に来ることをとても楽しみにして、練習に一生懸命励んでいました。

本番の前々日には、リハーサルの日として、児童・生徒鑑賞日を設けました。演技を鑑賞している子どもたちが、舞台上で緊張している友達に、声援や大きな拍手を送っている姿が、とても心温まる情景でした。仲間が励ましてくれたことは、本番への大きな自信に繋がったことでしょう。

ひまわり祭当日、子どもたちは舞台上立つと、役を楽しみながら劇に取り組んだり、舞台の上から家族を探したりするなど、様子は様々でしたが、約1ヶ月間の練習を積み重ねた子どもたちは、緊張しながらも自信に満ち溢れた表情をしていました。どのグループも、練習以上の力を発揮し、成果を出すことができました。

ひまわり祭という行事を通して、新宿養護学校の子どもたちは、また一步、成長することができたのではないかと思います。



### 研究部より

## 「教職員対象の研修会」

10月18日（水）に帝京大学教育学部初等教育学科教授の金森克浩先生に来校いただき、本校教職員対象に研修会を実施しました。テーマは「特別支援学校におけるiPadの活用」です。金森先生がまとめているアプリ総合ページ（本記事下部のQRコード）からタブレット端末で活用できるWEBアプリを多数紹介していただきました。その一つの「KOMA KOMA」（本記事下部のQRコード）というコマ撮りをしてアニメーションを作成するアプリを使用し、参加教員が2人1組になり、各々のアニメーションを作成する演習を行いました。アニメーションを作成することの楽しさを教員が理解した上で、児童・生徒の授業等に生かすということを改めて認識し演習を行いました。完成したものを全体で発表する場も設けられ、各々の個性溢れる作品が発表されました。

アプリ総合ページ



KOMA KOMA

